

グラビア	地域を支える人・長野県飯田市 桑山泉さん 柴田光俊さん 中島あさみさん 村松珠代さん	1
発掘！地域の希望のタネ	〈オーシャンキングの極〉 愛媛県松野町	5
給食のじかん	〈味噌カレー豆乳ラーメン〉 青森県青森市 岩淵恵一	6
書評	今井 照 著『未来の自治体論—デジタル社会と地方自治』 菅原敏夫	8
焦点	食料・農業・農村基本法改正の経緯・内容・課題 小嶋大造	10

特集 子どもの権利から考えよう

	保育の公共性とは何か—こどもの権利から考える	田中文字子	16
	保育園をめぐる経済学	山口慎太郎	24
	子ども議会・若者議会全国自治体調査から見たもの	土肥潤也	32
	子どもが生きていこうと思える社会であるために—チャイルドラインの実践から	向井晶子	38
	「自分は愛されるために生まれた！」 すべての子ども・若者がそう思える未来へ—子どもの声を聴く「子どもアドボカシー」の取り組み	山下祈恵	47
結びつなげる！ しまね自治研	まち全体に呼びかけていくダイナミックな地域医療対策 人づくり・組織づくりの起点となる自治研活動 江津市 「コミュニティ・オーガナイズングから学ぶ自治の力」参加体験記	植田圭介	53
しまね自治研 カウントダウン セミナー	子どもの頃に何度も転びながら 自転車の乗り方を覚えたように 「スイミー」のように小さな力を集結して 大きな力を作るには	西尾祥之 佐伯裕美	56
地域おこし 協力隊が行く！	第14回 島根編⑦ 浜田市 多くの方のご厚意を受け“一棟貸し宿”を起業	齋藤慎介	60
あの時、 私の職場では	不特定多数の来館者を迎える現場で	加納敬二	66
自治研活動 レポート	震災の復旧・復興を通じた自治研 —山形県本部	佐藤茂雄	70
	次号予告・編集部から		72



『未来の自治体論』

—デジタル社会と地方自治—

第一法規、四七三〇円

今井 照 著

自治法「改正」

大規模災害や感染症の大流行など、個別法が具体的に想定していない事態でも、国が地方に対応を指示することを可能とする改正地方自治法が、六月一九日の参院本会議で可決成立した。記憶の限り最悪の自治法「改正」。

本書の著者も広範に反対の論陣を張つ



た。ただし反対の理由は他と一味違って見えた。その秘密は本書を読めばはつきりする。

著者はまず「あるべき自治体」を置く。それを「市民自治体」と呼ぶ。未来は明確だ。そうすれば、DXも分権改革も強固だが第一歩に過ぎない。

著者はDXについて、反合・反コンピュータ闘争から始まって半世紀分を記す。分権改革も、団体自治と住民自治の不毛な二元論から脱し、市民が自治体を創るための一里塚でなければならぬと説く。それも半世紀分。

公務員

著者の公務員論は見もの。公務員生活十年の思索の結晶。「現場力と市民の共感」という皮肉屋の学者が顔を赤らめるようなストレートなテーマを、法律の条文、判例、国会審議、分権の筋道の中に位置付けた。著者が東日本大震災後に提唱した「二重の住民登録」も詳述されて

いる。領域、住民、役所の再定義、再構築を促す。須田春海、松下圭一からも学ぶ。市民が自己決定する「自治体」と市民として考える「公務員」を発見することを願って。

未来

著者と書評子はかつて自治総研での同僚。仲間ばめでないことの証に苦言を呈する。(毎度の指摘で申し訳ないが)本書には「索引」がない。書評の際、叙述に揺れがないかの検証に苦労した。恨む。もう一つは題名。表紙には「デジタル社会」と「未来」が白地に輝いて印刷されている。読めば見通せない未来と警世の書。良い意味での「羊頭狗肉」。著者も気づいて本書一行目に「未来」は「期待」を意味しないと書いた。一行目を読む前に本書の購入を断念した未来の読者に代わって苦言。装丁は大事に、題名は売れ筋を意識せずに。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員